

事業評価票

321	動物愛護事業等 (福祉保健局健康安全部/一般会計)	事業開始	昭和 55 年度
		事業終期	平成 31 年度

【局評価】

1	どのような経緯で事業を始めたか、何をを目指すのか
	<p>○ 家庭で動物を飼育している人は多く、動物を飼うことで生活に潤いや安らぎが生まれると感じる人も多い。一方で、飼い主のマナー欠如による近隣住民とのトラブルや、不適切な飼養や飼養の放棄による飼い主のいない猫の問題等も発生しており、結果として殺処分となる動物の存在にも繋がっている。</p> <p>○ 動物を命あるものとして大切に扱うことや、飼い主として責任をもって終生飼養することの重要性についての理解を広げるための啓発が必要である。</p> <p>○ 動物が社会の中で受け入れられるために、飼い主の適正飼養を徹底する必要がある。また、飼い主がなく動物愛護相談センターに引き取られた動物についても、新たな飼い主への譲渡を行い、可能な限り動物の殺処分を減らしていくことが必要である。</p>
根拠法令等	動物の愛護及び管理に関する法律 東京都動物愛護管理推進計画

2	どのように取り組み、どのような成果があったか
	<p>○ 動物愛護行事の開催等を通じ動物愛護精神の普及を図るとともに、飼い主向けの啓発資材、子供にもわかりやすい動物愛護読本・DVD、高齢者の飼養を支援するためのパンフレット等を作成し、適正飼養・終生飼養に関する啓発を進めてきた。また、区市町村や動物愛護推進員などのボランティアと協力し、飼い主のいない猫対策への理解促進を図り、動物愛護相談センターへの引取数減少に繋がっている。</p> <p>○ 動物愛護相談センターの収容動物を新たな飼い主に譲渡する取組においては、都の事業に協力する動物愛護団体を登録譲渡団体とし、団体と連携することにより幅広く行っている。また、動物愛護相談センターは、動物教室や適正飼養講習会の実施、飼養困難となった飼い主や区市町村からの相談対応、飼い主のいない猫対策に係る技術的支援等、動物に関する専門的能力を活かし、施策を推進している。</p> <p>○ 動物の殺処分数は、年々減少し、平成27年度においては、10年前の平成17年度の約8分の1まで減少している。</p>

3	どのような課題や問題点があったか
	<p>○ 動物の飼養をめぐるトラブルや動物の遺棄・虐待を未然に防ぐためにも、動物愛護の精神の普及や適正飼養の啓発を進めていく必要がある。</p> <p>○ 動物の殺処分数ゼロの実現に向け、動物愛護相談センターに引き取り、収容する動物数をさらに減少させ、また、収容した動物を新たな飼い主に譲渡する取組を拡大していくことが必要である。</p> <p>○ 動物愛護相談センターに引き取られる動物の中で多数を占めている離乳前子猫は、飼育が難しく殺処分となることが多い。</p> <p>○ 動物の譲渡をさらに拡大していくためには、動物愛護団体等と連携した取組や団体の活動への支援をさらに拡充し、また、譲渡の取組の認知度向上を図る必要がある。</p> <p>○ 普及啓発や動物の譲渡拡大等の施策を進める中核施設である動物愛護相談センターの機能強化が必要である。</p>

4	局として、事業をどうしていきたいか												
	<p>拡大・充実 見直し・再構築 移管・終了 その他</p> <p>○ 動物教室等の実施を通じ、子供の頃からの動物愛護の精神の涵養や適正飼養・終生飼養の啓発を進めていく。</p> <p>○ 動物愛護団体やボランティア等と協力して、飼育が難しい離乳前子猫の育成・譲渡を実施する。</p> <p>○ 動物譲渡促進支援サイトを開設し、動物愛護団体の譲渡活動の情報提供を行うなど団体と連携した取組を拡充するとともに、譲渡促進月間やPRイベント等により譲渡活動の認知度を上げ、都民の理解と協力を得て譲渡を拡大していく。</p> <p>○ 動物愛護相談センターの機能の強化により、施策展開を効果的に進めていく。</p>												
歳入	<table border="1"> <tr> <td>27年度決算額</td> <td>— 千円</td> <td>27年度決算額</td> <td>13,249 千円</td> </tr> <tr> <td>28年度予算額</td> <td>— 千円</td> <td>28年度予算額</td> <td>23,729 千円</td> </tr> <tr> <td>29年度見積額</td> <td>— 千円</td> <td>29年度見積額</td> <td>46,228 千円</td> </tr> </table>	27年度決算額	— 千円	27年度決算額	13,249 千円	28年度予算額	— 千円	28年度予算額	23,729 千円	29年度見積額	— 千円	29年度見積額	46,228 千円
27年度決算額	— 千円	27年度決算額	13,249 千円										
28年度予算額	— 千円	28年度予算額	23,729 千円										
29年度見積額	— 千円	29年度見積額	46,228 千円										
歳出	<table border="1"> <tr> <td>27年度決算額</td> <td>13,249 千円</td> <td>27年度決算額</td> <td>13,249 千円</td> </tr> <tr> <td>28年度予算額</td> <td>23,729 千円</td> <td>28年度予算額</td> <td>23,729 千円</td> </tr> <tr> <td>29年度見積額</td> <td>46,228 千円</td> <td>29年度見積額</td> <td>46,228 千円</td> </tr> </table>	27年度決算額	13,249 千円	27年度決算額	13,249 千円	28年度予算額	23,729 千円	28年度予算額	23,729 千円	29年度見積額	46,228 千円	29年度見積額	46,228 千円
27年度決算額	13,249 千円	27年度決算額	13,249 千円										
28年度予算額	23,729 千円	28年度予算額	23,729 千円										
29年度見積額	46,228 千円	29年度見積額	46,228 千円										

【財務局評価】

5	財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか
	<p>○ 都はこれまで、動物愛護行事や飼い主のいない猫対策などを通じ、動物の譲渡拡大・引取数減少への取組を実施してきた。</p> <p>○ 動物の致死処分は減少傾向にあるものの、殺処分ゼロを目指し、一層効果的な施策展開を加速させていく必要がある。</p>

6	29年度予算で、どのように対応したか	
	<p>拡大・充実 見直し・再構築 移管・終了 その他</p> <p>○ 殺処分ゼロの目標を達成するため、離乳前子猫の育成・譲渡の実施など、動物愛護団体やボランティア等との連携を推進していく。</p> <p>○ 動物愛護相談センターについては、譲渡拡大・引取減少の推進拠点として整備する必要があることから、局案のとおり予算を計上する。</p>	
歳入	29年度予算額	— 千円
歳出	29年度予算額	46,228 千円